



# 金婚 結婚50周年 おめでとうございます

9月1日(日)、高知新聞社・RKC高知放送などが主催する「第62回金婚夫婦祝福式典」が行われました。四万十市内の会場には幡多6市町村から参加があり、黒潮町からは3組が出席しました。

今年金婚式を迎えられたのは、1969(昭和44)年に結婚されたご夫婦です。50年間手を取り合っ  
て歩んできたお二人は、この日を迎えた喜びを分かち合い、穏やかな笑顔を見せました。



しのだ ひろし すみこ  
篠田 博さん・澄子さん  
(入野)



ふじさき かずお まさこ  
藤崎 和夫さん・政子さん  
(伊田)



ふじもと かずひろ さちこ  
藤本 和平さん・幸子さん  
(川奥)

※上記の方々のほか、泉弘・光恵ご夫妻も金婚式を迎えられました。おめでとうございます。  
※写真は、左上からあいうえお順に掲載しています。※許可をいただいた方のみ掲載しています。

## まほろば Vol.1 くるしお

「まほろば」とは、すばらしい場所・住みやすい場所という意味。  
まほろばな黒潮町で頑張る人や団体にスポットを当て、  
紹介する新連載を今月号よりスタートします(隔月掲載予定)。



なな たて ぐり  
七立栗生産組合 (平成24年設立)

四国遍路の途中、馬荷の山中に迷い込んだ弘法大師を、信仰深い夫婦が精一杯おもてなしをして助けました。その手厚い接待に心打たれた弘法大師が、お礼として残したのが「湧き水」と年に7回実をつける「七立栗」だという伝説が残っています。そんな七立栗を後世に残し、多くの人に知ってほしいと活動しているのが「七立栗生産組合」。現在は観賞用として主に出荷されています。今回は作業中の倉庫を訪ね、矢野史明代表に話を聞きました。

「ついでに活動をついでにしようか。」  
生産組合の前身は平成6年に前代表の堀川寛さんが立ち上げた「七立栗保存会」で、自然に生えていた栗を選別して畑に植え替え、生産することを始めた。それから、残すだけでなく広めたいという思いから、県の補助金などを活用してこの倉庫(工房ななたて)を建て、平成24年に「七立栗生産組合」という名前になり、観賞用に名古屋などに出荷をするようになったがよ。今は専業ではないけど、11軒の農家が作りよう。保存会立ち上げから生産しよる堀川さんは95才で現役ながよ。



七立栗畑。小さな実がならびます。

ついでに活動をついでにしようか。

観賞用の出荷がメインとついでに味が、味はどじょうか。

小さいけど糖度は20度くらいあって甘く、味もえいよ。七立栗は「四万十甘栗」の交配にも使われた品種ながよ。昔は山に自生していた七立栗を拾って売りによったみたいながよ。これまでは観賞用の出荷だけで、食用は今年初めてこうち生活協同組合と契約して、150パック出荷する予定ながよ。あとは地区の秋



収穫された七立栗

「今後の七立栗の展望は？」  
だいが前やけど、全国放送の情報番組の生け花に使われたこともあるがよ。まずは町内の人に知ってもらい、全国に広めたい。良いものをたくさん作って、生産者も増えしてほしい。いつか黒潮町の名産になってほしいと願うね。



保存会を立ち上げた堀川さん。(写真右) 慣れた手つきで出荷準備を行います。

祭りや海辺の日曜市で茹で栗を販売することもあるよ。馬荷ではよく知られちゃうけど、町内でも食べたことがない人多いと思う。

広報に掲載しきれない内容や取材の裏話を町公式Facebookに掲載します。裏表紙のQRコードからご確認ください。